

図書だより 1月号

いままで本を読んできた人はこれからも、読んでこなかった人はこれから是非たくさん本を読んでいきましょう。

オススメの本紹介

英雄の書 宮部みゆき



森崎友理子は小学五年生。ある日、中学生の兄・大樹が同級生を殺傷し、失踪するという事件が起きた。兄の身を心配する妹は、彼の部屋で不思議な声を聞く。「君のお兄さんは、“英雄”に憑かれてしまった」。大叔父の別荘から兄が持ち出した赤い本が囁いた。『エルムの書』に触れ、最後の器になってしまった、と。友理子は兄を救い出すべく、英雄が封印されていた“無名の地”へと旅立った。

インフェルノ ダン・ブラウン



「ダヴィンチ・コード」を書いた、ダン・ブラウンの最新刊。

フィレンツェ。襲撃を受け病院を逃げ出したラングドン教授。手にした見慣れぬ円筒から浮かびあがったのはダンテ『神曲』を描いた、ボッティチェッリ〈地獄の見取り図〉。原画にはない暗号、解読した先に待つのは？

侵略する少女と嘘の庭 清水マリコ

牧生、唯、裕貴、琴美は幼なじみ。小さな頃は結婚の約束をするほど仲の良い4人だったが、中学生となった今では無邪気にふれあうことができなくなっていた。そんなある日、牧生がついた小さな嘘をきっかけに、4人は不思議な少女・りあと出会う。その出会いは、4人の関係を変えていく。



どの本もとても面白いです。また、新刊もたくさん入っているので、是非読んでみて下さい。